

9.18 研修会

# 宣教師のみた満洲国

キリスト者遺族の会では、柳条湖事件が起こった9.18を覚えて、毎年「日中戦争について学ぶ会」を開催してきました。今年は、日本が、中国東北部を植民地化していく過程を、同地で19世紀後半から伝道していた外国人宣教師たちがどう見ていたかを、この領域を専門に研究している渡辺氏から伺います。かれらは、厳しい情報統制の中、冷静でかつ国際的視野から第三者として満洲国の支配を観察していました。日本による支配のありよう、キリスト者と満洲国政府との関係は、宣教師たちの目にどう映っていたのかを学びましょう。

## 講師 渡辺 祐子

(明治学院大学教授・中国キリスト教史、日本キリスト教会宇都宮松原教会員)

著書・参考文献

『日本の植民地支配と「熱河宣教」』（いのちのことば社、2013年）、

『現人神から大衆天皇制へ・昭和の国体とキリスト教』（刀水書房、2017年）所収

「満洲国におけるキリスト教教育と国民道徳—孔子廟参拝強制をめぐる」

『はじめての中国キリスト教史』（かんよう出版、2016年）

日時 10月7日(土)

14時～16時半(開場13時半)

資料代 500円

会場 矯風会館三階 集会室

JR大久保駅北口3分

TEL. 03-3361-0934



共催:キリスト者遺族の会・日本キリスト教婦人矯風会

問合せ Tel. 080-5412-9386(坂内)